



# ステンドグラス

## るうてる 月報No.318

私たちの教会は、アメリカのスウェーデンルーテル教会・オーガスタナの人々の祈りにより宣教が開始されました。

〒145-0071 大田区田園調布 2-37-5  
03(3721)4716 牧師杉本洋一  
[den-en-luther@proof.ocn.ne.jp](mailto:den-en-luther@proof.ocn.ne.jp)  
郵便振替口座 0010・2・□119087

「私たちのささげる贈り物は何？」

「その時、占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て、言った。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。私たちは、東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」

(マタイ福音書二章一・三節)  
田園調布ルーテル教会 牧師 杉本洋一

新年あけましておめでとうございます。今年も、神さまの豊かな祝福が限りなくありますように。

昨年は、東日本大震災によって、私たちそれぞれが、これまでの歩んできた過去を見直す時が与えられましたが、あの三月十一日を境にして、生活の再確認と再点検が行われ始めました。「これでよかったのか」「今をどうするのか」「これから先どうするのか」いろいろな場所、いろいろな関係において、議論は果てしなく進み始めました。

年末、NHKラジオを聞いていましたら、震災を受け、家族を失った方が、「突然、生活を変える出来事は起こるんだ」「日常のふつうの出来事は、ふつうの事ではないんだ」と証言していたことの二点を強調したことが心に残りました。生活の便利さ・豊かさの中で、いつも行っている営みが、多くの恩恵の上に成り立っていることで、その恵みの感覚に気づくことを忘れていることを改めて感じます。

さあ、それでも新しい年が始まりました。一月八日は、「主の顕現日」でした。救い主キリストが、どのような人に対しても、ご自分を現されたことを記念する日でした。いろいろなことに思い悩み、心騒ぎ疲れ果てようとする時

にも、すべての人に向かって、神さまは、ご自分の姿をお示しになったのです。この日の読まれる聖書の言葉は、博士らが、イエス・キリストの誕生の場所を探して、神のみ子の誕生場所であり、宿と呼ぶにはほど遠い馬小屋へ接見しに行くところです。

占星術の学者と呼ばれた博士らは、赤子のイエスさまに会うために遠く旅してベツレヘムにやってきました。贈り物を携えて。黄金、乳香、没薬です。黄金は王の冠を思わせます。その地位ふさわしい贈り物です。しかし、イエスさまがかぶった冠は、生涯でたった一度、いばらの冠でした。乳香は、王である者に油を注ぐ高価な油でした。王にふさわしいものです。没薬は、死者に防腐剤として用いる薬です。同じく高価なものだったでしょうが、生まれたばかりの赤子への贈り物としては、似つかわしくありません。まるで、誕生が死へと向かうかのような象徴的なイエスさまの人生を描くようなものとなっています。

彼らは、ただ、「会い」に行くだけです。本当に不思議です。赤子から祝福を受けるために来たのでもありませんし、ここで賛美歌を歌ったのでもありません。立派な礼拝堂でお祈りしたのでもありません。家畜のにおいがする場所、高価な贈り物をささげたのです。

博士らは、この救い主の誕生に、全精神全精力を注いでいたのです。「それで、彼らは満足し、よし」としたので

す。私たちが、この博士たちのように、イエスさまを心から信頼し、賛美と感謝をささげていこうではありませんか。わたしたちがイエスさまに捧げる贈り物は、何でしょうか。信仰のまごころです。

